

ASBJ Newsletter



目次

1. 企業会計基準委員会の概要（第262回～第265回）
2. IASB及びFASBに対するASBJのコメント（2013年4月1日～2013年5月31日）
3. 第7回IFRSリージョナル・ポリシー・フォーラムに西川委員長が参加
4. 会計基準設定主体国際フォーラム（IFASS）会議に加藤前副委員長が参加
5. 基準諮問会議委員の選任
6. 企業会計基準委員会と国際会計基準審議会の代表者が定期協議において新たな関係のあり方を確認
7. FASFセミナー「四半期報告書作成上の留意点（平成25年6月第1四半期提出用）」を開催
8. お知らせ
 - 1) 刊行物のご案内
 - 2) ASBJ Web セミナーのご案内

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

1. 企業会計基準委員会の概要（第262回～第265回）

1) 第262回（2013年4月11日開催）

委員会運営について

第262回委員会は、委員会運営に係るものであるため、非公開で行われました。

4月の委員会委員の改選にともない、新井常勤委員及び小賀坂常勤委員が副委員長に指名されました。

2) 第263回（2013年4月25日開催）

a. 会計基準アドバイザリー・フォーラムの報告及びASAF対応専門委員会の設置について

b. 金融商品専門委員会における検討状況

c. 基準諮問会議からのテーマ提言への対応について

d. 企業結合（ステップ2）の検討

e. 実務対応専門委員会における検討状況について

a. 2013年4月にロンドンで開催された第1回会計基準アドバイザリー・フォーラムの報告が行われました。

委員会からは西川委員長が同会議に出席しています。

b. FASB 公開草案「金融資産及び金融負債の認識及び測定」及び「信用損失」に対するコメント対応の検討が行われました。

c. 基準諮問会議から検討提言のあった会計処理及び表示について委員会で審議することが改めて確認されました。

d. 企業結合ステップ2に関する公開草案に寄せられたコメントの概要説明が行われました。

e. 従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する専門委員会での検討状況の報告とその方向性についての検討が行われました。

3) 第264回（2013年5月16日開催）

a. IASB 定期協議の概要

b. FASB 公開草案「金融資産及び金融負債の認識及び測定」へのコメント対応について

c. 無形資産に係る会計基準の検討について

a. 2013年5月に開催されたIASBとの定期協議の報告が行われました。

概念フレームワーク、保険契約、金融商品（減損）、のれんの減損及び償却に関するリサーチが議題として取り上げられています。

b. FASB の公開草案に対するコメントの最終検討が行われました。

c. 無形資産の基準開発対応について「企業結合時に識別される無形資産の取扱い」及び「個別取得の仕掛研究開発の取扱い」という2つの論点から検討が進められていますが、現時点ではこれらの取扱いに係る市場関係者の意見が大きく分かれているため、現時点では一定の方向性を打ち出さず、継続検討とすることが考えられています。

また、今後の検討に資するため、これまでの無形資産に関する論点についての意見および考え方を整理し、検討経緯として取りまとめることとされました。

4) 第265回（2013年5月29日開催）

a. FASB 公開草案「信用損失」へのコメント対応について

b. 実務対応専門委員会における検討状況

c. 企業結合（ステップ2）の検討

d. 無形資産に係る会計基準の検討

a. FASB が2012年12月20日に公表した会

- 計基準更新書案「金融商品－信用損失（サブトピック 825-15）」（コメント期限：2013年5月31日）へのコメントレター（案）について審議が行われました。
- b. 実務対応専門委員会における「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引」の検討状況の概略について説明があり、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い（案）」について審議が行われました。
 - c. 公開草案に寄せられたコメントへの対応として、支配が継続している場合の子会社に対する親会社の持分変動において、資本剰余金がマイナスとなった場合の取扱い、子会社株式を一部売却した場合等に生じた法人税等の取扱い及び非連結子会社及び関連会社における持分法の取扱いについて審議が行われました。
 - d. 無形資産プロジェクトにおける検討経過の取りまとめ（案）について説明が行われ、今後、適宜修正等を加え、次回以降の委員会に諮ったうえで、可能であれば6月末を目途に完成させ、ホームページへの掲載を考えている旨の説明がありました。

2. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント（2013年4月1日～2013年5月31日）

- 1) [公開草案「デリバティブの契約更改とヘッジ会計の継続（IAS第39号とIFRS第9号の修正案）」に対するコメント](#)を提出（2013年4月5日）
- 2) [会計基準更新書案「金融商品－全般（サブトピック 825-10）：金融資産及び金融負債の認識及び測定」に対するコメント](#)を提出（2013年5月20日）

3. 第7回 IFRS リージョナル・ポリシー・フォーラムに西川委員長が参加

2013年6月5日と6日、香港で第7回 IFRS リージョナル・ポリシー・フォーラムが開催されました。今回のフォーラムでは、「よりよい財務報告に向けて（“A Journey to Better Financial Reporting”）」がテーマとされ、会計基準設定主体、規制当局や監査事務所関係者等が意見を交わしました。

香港公認会計士協会（HKICPA）が主催した今回のフォーラムには、16の国・地域から代表者約190名が参加しました。IASBからはHans Hoogervorst議長、Zhang Wei-Guo理事、Stephen Cooper理事他が、IFRS財団からは竹村ディレクターが参加しました。日本からは、金融庁の井上国際会計調整室長が証券監督者国際機構（IOSCO）を代表して参加した他、ASBJから西川委員長、小賀坂副委員長、関口委員及び紙谷ディレクターが参加しました。

冒頭、香港公認会計士協会 Susanna Chiu 会長及び香港公認会計士協会財務報告基準委員会 Clement Chan 委員長から歓迎の挨拶がなされた後、アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）Kevin Stevenson 議長、香港の財經事務及庫務局 K C Chan 局長が基調講演を行いました。

次にIASBのHans Hoogervorst議長、Zhang Wei-Guo理事及びIFRS財団の竹村ディレクターから、IFRSに関する時事的な問題や今後の課題について説明がありました。

その後、次のパネルディスカッションが行われ、フォーラム参加者との質疑応答や意見交換も併せて行われました。

- ・「IFRS への移行 - コンバージェンス・アプローチ」(司会：PwC、パネリスト：マレーシア会計基準委員会、IASB、中国財政部)
- ・「基準設定に関する議論に影響を与える地域の役割」(司会：香港公認会計士協会財務報告基準委員会、パネリスト：韓国会計基準委員会、会計基準設定主体国際フォーラム)
- ・「開示の有効性と明確さの改善」(司会：IASB、パネリスト：E&Y、豪州会計基準審議会、KPMG、Webb-site.com 創設者)
- ・「財務報告を改善する監査委員会の役割」(司会：KPMG、パネリスト：キャピタルランド社、ニュージーランド外部報告委員会、香港取締役協会)
- ・「財務報告目的の評価業務」(司会：インドネシア財務会計基準委員会、パネリスト：国際評価基準委員会、PwC、IASB、シンセア社)
- ・「上場会社に関する財務報告規制フレームワークの強化における課題」(司会：IASB、パネリスト：香港財務報告局、金融庁、香港証券取引所)
- ・「“よりよい財務報告”に向けた継続的な活動」(司会：香港公認会計士協会財務報告基準委員会、パネリスト：E&Y、豪州会計基準審議会)

最後に、香港公認会計士協会財務報告基準委員会 Clement Chan 委員長が閉会の辞が述べて幕を閉じました。

4. 会計基準設定主体国際フォーラム (IFASS) 会議に加藤前副委員長が参加

2013年4月17日及び18日の2日間にわたり、ブラジルのサンパウロにて会計基準設定主体国際フォーラム (International Forum of Accounting Standard Setters: 略称(略称: IFASS)) 会議が開催されました。英国、米国、カナダ、フランス、ドイツ、オーストラリア、中国、韓国、インド、シンガポール等計30ヶ国・地域の会計基準設定主体とIASBやEFRAG等の関係機関から総勢56名の参加があり、ASBJからは、加藤前副委員長及び紙谷ディレクターが参加しました。

本フォーラムは、各設定主体が取り組んでいる研究プロジェクトに関する議論や、IASBの基準開発へのインプットやサポートを行うことを目的とするものであり、年2回、春と秋に定期的に会議が開催されています。

今回の会議では、以下のテーマについて議論が行われました。

	議題	担当
4月17日(水)		
1	開示フレームワーク	EFRAG FASB 英国 IASB
2	IASBと各国基準設定主体/地域グループとの関係	IFRS財団 IASB
3	国際公会計基準審議会からのアップデート	IPSASB
4	各国の時事的な問題	—
	(1) 投資税額控除	南アフリカ
	(2) 割引率	ドイツ

	(3) 支配及び被支配企業でフレームワークが異なることにより生じる会計上の課題	インド
	(4) 排出権	EFRAG
4月18日(木)		
5	IASB 作業計画	IASB
6	IFASS メンバーによるプロジェクト	—
	(1) のれんの償却及び減損に関する調査	イタリア ASBJ
	(2) 測定フレームワーク	カナダ
7	地域グループからの報告	AOSSG EFRAG GLASS PAFA
8	IFRS for SMEs	シエラレオネ共和国
	各国の時事的な問題	—
9	(1) ビジネスモデルの役割	EFRAG
	(2) 概念フレームワークに関する活動	EFRAG
	(3) OCI の使用状況の調査	ASBJ

5. 基準諮問会議委員の選任

FASF では、2013年5月30日に開催した理事会において、定款第64条第1項の規定に基づき、基準諮問会議委員2名の選任を決議しました。

内田 浩示 氏(一般社団法人全国銀行協会
金融調査部長)

北村 巧 氏(野村ホールディングス(株)
Co-Deputy CFO)

(就任日:2013年5月30日)

なお、同年5月29日付で中川順子氏
(野村ホールディングス(株)執行役員)

は基準諮問会議委員を辞任しております。

6. 企業会計基準委員会と国際会計基準審議会の代表者が定期協議において新たな関係のあり方を確認

企業会計基準委員会(ASBJ)と国際会計基準審議会(IASB)(以下「両ボード」という。)の代表者は、2013年5月9日と10日に東京にて定期協議を開催いたしました。本定期協議は、2005年3月以来定期的に行ってきた会合の第17回目にあたります。今回の定期協議において、両ボードは、金融商品、保険契約及び財務報告に関する概念フレームワークの見直し作業を含むIASBのアジェンダについて議論を行いました。

IFRS財団は、評議員会による「戦略レビュー2011」において示された提言を踏まえ、IASBへの技術的助言機関として各国会計基準設定主体及び地域団体をメンバーとする会計基準アドバイザリー・フォーラム(ASAF)を設置しており、ASBJはASAFのメンバーとして選出されています。ASAFは、IASBとASAFメンバーによる覚書によって、IASBと個々の会計基準設定主体との間で複数存在する二者間の関係を置き換えることを目的として設置されたものです。

ASAFの第一回会合は、2013年4月に開催されており、今回の会合によって、ASBJとIASBとの間の年2回の定期協議は終了します。しかしながら、両ボードは、両者間の定期的なコミュニケーション、ASBJからIASBへのスタッフの派遣及びASBJからIASBによる調査研究プロジェクトへの貢献を通じて、今後とも密接な関係を築いていく予定であります。

7. FASF セミナー「四半期報告書作成上の留意点（平成 25 年 6 月第 1 四半期提出用）」を開催

FASF では、6 月 4 日より東京（3 回）、大阪、名古屋、高松、広島、福岡、金沢、仙台、札幌の全国 9 都市、11 回にわたって「四半期報告書作成上の留意点（平成 25 年 6 月第 1 四半期提出用）」のセミナーを開催しました。

当セミナーでは、昨年の第 1 四半期からの改正点の説明をはじめ、「退職給付に関する会計基準」等の早期適用に係る記載事例、第 2 四半期報告書特有の記載事例等についても説明を行いました。また、ASBJ から「企業会計基準委員会（ASBJ）の活動状況」についての説明も併せて行われました。



8. お知らせ

1) 刊行物のご案内

- ① 機関誌「季刊 会計基準」第 41 号
（2013 年 6 月 28 日刊行予定）

【主な内容】

- ✓ 特集 1：会計基準アドバイザリー・フォーラム(ASAF)の設置について
- ✓ 特集 2：企業会計基準委員会 新任委員の紹介
- ✓ Accounting SQUARE：「国際会計基準財団モニタリング・ボードの活動に

ついて」…河野 正道 国際会計基準財団モニタリング・ボード議長

- ✓ Chairman's Voice：“第 1 回 ASAF 会議と IASB との定期協議最終回を終えて”…西川 郁生 ASBJ 委員長

②有価証券報告書の作成要領（平成 25 年 3 月期提出用）

本書では、2013 年 3 月期の有価証券報告書を作成する上での各項目の記載事例や根拠条文等のほか、作成上の留意点を掲載しています。

③四半期報告書の作成要領（平成 25 年 6 月第 1 四半期提出用）（6 月中旬より順次発送予定）

本書では、2013 年 6 月第 1 四半期の四半期報告書を作成する上での各項目の記載事例や根拠条文等のほか、作成上の留意点を掲載しています。

④国際財務報告基準(IFRS)2012 IFRS 財団公認日本語版

IASB が公表した IFRS の全内容を収録した公式出版物「International Financial Reporting Standards 2012」の日本語版。新基準である IFRS 第 10 号「連結財務諸表」、第 11 号「共同支配の取決め」、第 12 号「他の企業への関与の開示」、第 13 号「公正価値測定」や、改訂 IAS 第 19 号「従業員給付」など、2011 年の改定内容をフォローして 2012 年 1 月 1 日現在で公表されている基準書等を掲載している最新版であり、合計 3600 頁以上に及ぶ原書の全文が翻訳されています。

2010 年版から、原書の構成変更に合わせて、強制力のある要求事項（基

準本文、適用指針)を収録した Part A
と、強制力のない附属文書(結論の根
拠、適用ガイダンス、設例等)を収録
した Part B との 2 分冊となっていま
す(分売不可)。

※ご購入は[こちら](#)。

※第 30 号より、FASF 会員の皆様は、
季刊会計基準に掲載される記事が[ホ
ームページ\(会員専用サイト\)よりご
覧になることができます](#)。どうぞご利
用ください。

2) [ASBJ Web セミナーのご案内](#)

ASBJ/FASF では、FASF 会員の皆様
に ASBJ の開発する会計基準や
ASBJ/FASF の活動をより分かりやすく
効率的に理解していただくために、Web
セミナーをホームページ(会員専用サイ
ト)で提供しています。

最近では、ASBJ オープン・セミナー
2013 年 2・3 月(2013 年 2 月 21 日、
よみうりホールにて収録)を 2013 年
8 月 31 日までの期間限定で掲載してい
ますので、会員の皆様はどうぞご利用く
ださい。

“ASBJ Newsletter”(第 33 号)

2013 年 6 月 20 日発行

発行：企業会計基準委員会／

公益財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20 階

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：planning@asb.or.jp

Fax：03-5510-2712